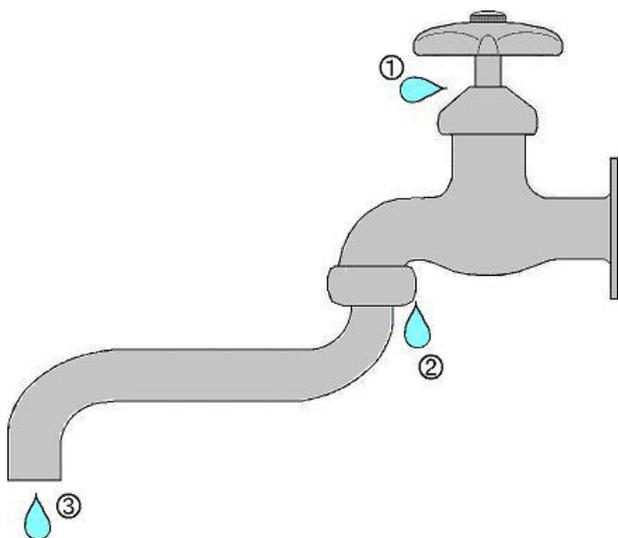


蛇口の水漏れでは大きく次の3つの例があります。

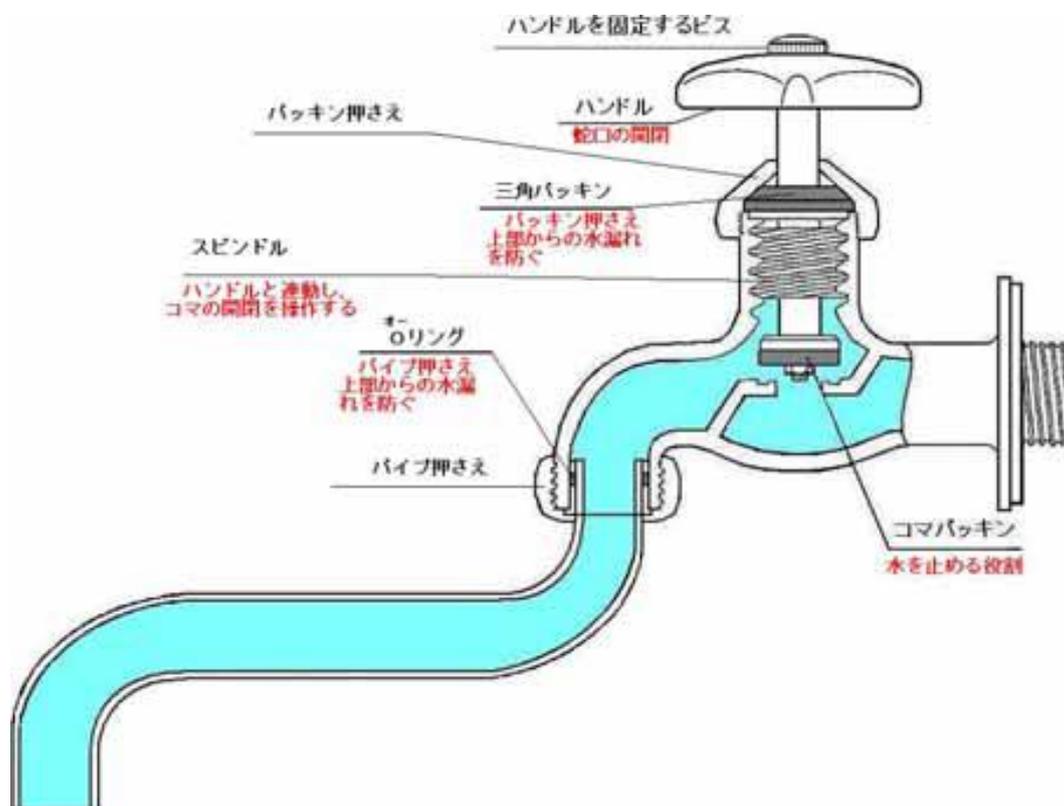


①ハンドルの下から漏れる。

②パイプ部分から漏れる。

③蛇口から水が漏れる。

これら一般的な3つの例を直す前に、蛇口ってどんな造りになっているのかを見てみましょう。



上の図の灰色部分が各種パッキンです。三角パッキンはハンドルの下、Oリングはパイプ接続部の水密性をそれぞれ保っています。

そしてコマパッキンがハンドルの回転で上下することにより蛇口の開閉を行っています。

ここで3つの例を見てみると、①は三角パッキン、②はOリング、③はコマパッキンが磨耗するなどして、完全に止水できていない事により漏れているのがわかると思います。



それでは、分解してみましょう。

まずは使う道具の確認、プライヤーとピンセット(割り箸でも可)を準備しましょう。



プライヤーの例

まずは水抜栓などで、止水をしておきましょう。

(水抜は正しく全開・全閉で)

次にプライヤーでハンドルを固定するビスやパッキン押さえ、スピンドルを反時計回りに回し、外します。

この時布等を巻いて行うとプライヤーでの傷を防ぐことができます。



パッキン押さえを真上に抜きます

三角パッキンも真上に抜いて交換を行いますが、入れるときにハンドルを固定していたギザギザの部分で傷をつけないように慎重に入れましょう。

これで①の水漏れは解決！

②をとばして先に③の解決を。



コマパッキンは金具等でスピンドルの下に固定しているものや、一体型のもの、ゴムのみ交換可能なもの、節水コマなど様々ありますが、写真のタイプはゴムのみ交換できます。コマパッキンが外れているタイプの場合は、蛇口内部からピンセット等でつまみ出し、新しいものに交換します。

組み上げる時は今の順番の逆に戻ります。

スピンドルに新しいコマを差し込むなどして本体へはめ込み、ハンドルを手で時計回りに回して締めます。ある程度締めたら、パッキン押さえを手でねじ込み、最後に軽くプライヤーなどで締めます。

ここでパッキン押さえを締めすぎるとハンドルが重くなるので注意が必要です。

手で締め、水抜栓を開いて通水し、漏れない程度に軽く工具でさらに締めるのが良いでしょう。

これで③の水漏れも解決！台所の気になるポタポタともサヨナラ!!!



最後に②を直しましょう。

最初と同じように、布等で傷を防ぎつつ、パイプ押さえを緩めます。

パッキンは手で外して簡単に交換できます。

戻すときはパイプ押えのナットを締めすぎると首を振りにくくなるので程々に。

これで②の水漏れも解決！

では、注意点を確認しましょう。

◎工具等で傷をつけないように、ビスやナットを締めたり緩めたりするときは、布等を巻いて傷を防ぎましょう。

◎三角パッキンを出し入れする際はねじ山で傷をつけないように慎重に行いましょう。せっかく交換しても傷がつくとまたすぐに漏れてしまいます。

◎ハンドルや、首振り式のパイプなど、動かすことができる部分を締付けるナットは締めすぎないように適度に締めましょう。

以上、蛇口からの主な水漏れの3つの例についてパッキン等の交換方法を簡単に説明してきましたが、あくまでも一般的な蛇口の場合です。

一般家庭では蛇口のサイズは13が使われている場合が多く、コマなども13用(15mm)と表示のあるものを使えば大抵の場合、互換性があります。

ホームセンターなどでパッキンなどは手に入りますが、蛇口が特殊な場合や、蛇口のサイズが20や25のものもあります。メーカーによっては交換ができないタイプや、一般的なパッキンと互換性がないものもあるので注意してください。

このような配管に手を加えない軽微な作業(パッキンの交換、蛇口の交換)は良いですが、新築や改築などで蛇口を増やす、新しい器具をつける、水周りをリフォームする等の場合は、上下水道部への届出を行い、あらかじめ承認を得た上で、施工は滝沢市指定給水装置工事事業者で行わなければなりません。

指定事業者以外による未承認の工事等の場合、お客様への給水を停止するなどの措置を取る場合があります。